

昼過ぎに、ホテルのスタッフが、「今日チェックアウトでしょ」と部屋に来た。違うよ、4日先だよ、と言うと、今度はフロントから電話が掛かってきた。フロントに來いと言う。さもなければ今夜は泊めないと。いきなり大上段に構えたもんだ。「用事があるなら、そっちが来たらどう」と言ってみるが、向こうは一步もひかない。

仕方なくフロントに行くと、コンピュータの画面と、リストを見せられ、「あんたは今日チェックアウトでしょ」と同じ事を言う。

「だから違うよ、旅行代理店がこのホテルの手違いだよ」というが全く信じない。さらに、「書類を見せろ」と言い出す。

「おいおい、クーポンはチェックインの時に渡したじゃないか。俺が持っているはずがないだろ。そのクーポンを調べろよ」と抗議すると、フロントにはないという。

拳げ句の果てには「今日泊まりたければまずは50ドルをデポジットしろ」と言う。またもや大上段の構え。

「そのクーポンがないんなら、旅行代理店に電話しろよ」と促し、電話させるがあいにく日曜日で誰も出ない。

さて、いよいよ困った。全額振り込んでしまった後の、こういうトラブルが一番困る。

金を払えの一点張りなので、「まずはホテルのどこかにあるクーポンを調べろ、俺は一ペソも払わんぞ」と啖呵を切って部屋へ戻った。

このままクーポンが見つからなかったら、ホテルのロビーで寝てやろうと思った。

15分後に電話があって、「ミスが見つかった。もう問題ないから。Have a nice day!」と言って電話を切りそうになるから、「ちょっと待て、俺はわざわざフロントへ言って説明したんだぞ。そっちのミスなら部屋へ来て説明すべし」と言う、相手はようやく大上段の構えから低姿勢になり謝りに来た。やはりこの国も、しっかり社会主義なのだった。

気を取り直しハバナの街の様子を幾つか。

ハバナ大学

この国の最高学府ハバナ大学に行ってみた。広くて長い階段、大きな門。大分前の作りだろう。威厳がある。中庭に行くと何故か戦車が一台飾ってあるあたりが何だか訳も分からずキューバらしい。

大学の売店に行きたかったが無いという。そんなはずはないと思うのだが、誰に聞いても同様だった。カフェテリアならあると言うので行ってみることに。



とても威厳のある建物。カストロもこの大学で学んだらしい。因みに法学部。

案内された建物に入ってみる。女性の守衛がいたが、カフェテリアへ行く、と言うとにっこり笑って入れてくれた。そのカフェテリアは建物の二階にあって、実に質素というか、お粗末なものだった。教室を改造したような感じ。コーヒーが飲める程度だろうか。

多くの教室では授業が行われていた。自分が大学にいた頃は、もっとのんびり授業を受けていた気がするが、ここでは結構真剣だ。寝ている人も皆無だった。授業中に寝ているのは日本の大学だけなのかなあ。

一旦建物の外へ出て大学の中を歩く。

再びカフェテリアがあった。こちらは立ち席ながらまともな食堂の様だ。サンドイッチが置いてある。キューバのサンドイッチは、ハンバーガーの様なパンを使っている。

チーズが挟んであるやつ、ハムが挟んであるやつなど、どれも1つ3ペソ(0.12ドル)。2つも食べれば、朝食としては十分だと言う大きさである。

ジュースは1つ1ペソである。

キューバの教育システム

大学を出て街を歩く。

途中、道路を封鎖して歩行者天国になっている通りがあった。

何事かと思ったら、その通りには幼稚園があって、子供が路上で遊んでいる。ハンカチ落としみたいな遊びの様だった。

社会全体で子供がとても大事にされている。



着ている洋服はぼろぼろだけど、黒人も白人もアラブ系も東洋系もみんな仲良く遊んでいる。

キューバの教育システムは小学校6年、中学校3年、高校3年、大学5年だそうだ。

そしてキューバでは学費が無料らしい。そして全員がきちんと学校へ行く。制服も支給されるらしい。医療と並んで教育も重点分野なのだ。

結果として識字率はきわめて高い。

キューバを経済封鎖しているアメリカより、はるかに高いらしい。

日本からすると、別になんて事ない話だが、これだけ貧しくて、物乞いの子供たちや、物売りの子供たちがほとんどいないというのは、ものすごく凄い事なのである。

しかし、教育が国を富ます、という事を信じている私にとって、このキューバってのは全く実証していない事になる。そう考えると、政治ってのは実に重要なんだなあなどと思うのだった。

ハバナの住宅地

さらにいつもの様に街を徹底的に歩く。

もうどこを歩いているのか全くわからない。

太陽は真上にあるし、観光者が通る道を外れてしまうと、道にはもう何々通りと書かれていない。メキシコも書かれていなかったが、キューバは輪をかけて書かれていない。

日本の住宅をウサギ小屋と外人は言うが、ハバナでは日本と同じような広さ敷地に住んでいる人が多いようだ。家から音楽も流れてくる。多くの家にはテレビやラジカセがあるようだった。

200 万人都市のハバナには団地も多い。しかし多くは相当ぼろぼろだ。築 30 ~ 40 年という感じ。

キューバではまれにバルコニーが落ちるという事件があるらしい。信じられないが、このボロい建物を実際に見ると、有り得ない事ではないなあとってしまう。

住宅街にはショッピングモールもあった。こうカタカナで書くと格好がいいが、ちょっとした掘っ建て小屋が並んでいる程度である。

相変わらず商品のバリエーションが少ない。同じ商品ばかりある。一昔前の北京の様だ。水以外には何も買うものがない。

アイスクリーム屋さんは住宅地でもよく見かける。若者だけでなく、おばあちゃんも道端で食べている。値段は 3 ペソ程度(0.12 ドル)。サトウキビの名産だからすごく美味しいという人もいるが、日本のアイスも十分美味しいので比較すると普通かなあ。でもコーンの部分は味があって確かに美味かった。

一方、海岸沿いの新市街では、立派な大きなビルがバンバン建っている。建設中のビルや、再開発中の土地がたくさんある。

キューバはようやく、こうしたリゾートマンションやリゾートホテルの建設ラッシュが始まったかのようだ。

とてもキューバ資本とは思えない。アメリカの何とか法などお構い無しにヨーロッパの会社が進出しているようだ。

海は青かったが風が強いせいかとても波立っていた。ハバナの海は砂浜ではなく泳げないようだ。



何十階というビルがどんどんと建つ海岸沿いの場所。海の先にはフロリダがある。

ハバナクラブ

キューバといえばラム酒である。

ハバナクラブとはラム酒のブランドの名前である。そのハバナクラブが博物館を持っている。

行ってみると、フランス語、ドイツ語、英語のツアーがあった。

社会主義にしては気が利いている。内装が素晴らしくオシャレな場所で、加えて商売も上手であった。

ツアーのスタートを待っている客に、ラムを勧めるのである。目の前でオレンジと砂糖きびを絞って、ラムの2年ものを入れて売っているのだ。値段は2ドル。これが渴いた喉にしみわたって実に美味しい。

ラムは、長く熟成してもあまり美味くならない、と聞いた事があるが、ここでは長いほど良いという説明だった。ここでは最長で20年ものを作って、ブレンドして15年ものとして製品化しているのだそうだ。

この博物館には、1930年のラム工場を再現したミニチュアがある。また、黒人はラム酒作りの為に相当苛酷な労働を強いられた、という内容の展示もある。

10分ぐらいでツアーは終わり。最後に6年ものラムを飲む。

売店では15年ものが85ドルで売っていた。以前CNNで放映したところ観光客が殺到して、この店から15年ものが全て消えた事があったそうだ。今はあるが、さすがに高いので買えないなあ。

葉巻工場

キューバといえば葉巻である。

ハバナにある葉巻工場に行く。工場見学は10ドルと高かったし、興味が無いので工場は見ない。

でもキューバに来てからというもの、たいした土産話が無いので、自分では吸わないのだが、せめてお土産に葉巻を買う事にしたのだ。

売店の葉巻はとても高かった。25本入りで1,770ドルなんてものもある。ばら売りもあるのだが、箱入りの多くは数百ドルだったりする。原価はほとんど掛かっていないだろうに。



ご丁寧に一本一本が金属のケースに入れられ、化粧箱に入れられ、こうして家具に入れられている。こうなるとまるで宝石だ。

ホテルへの帰り際に、ふと見ると露天で葉巻を売っていた。キューバ庶民が吸っているやつだ。パルタガスブランドのものと味を比べてもらう良い機会なので買ってみようと思っただけで値段を聞いた。何と1ペソである。

幾らパルタガスが高級品だからといって、その差は軽く数百倍である。ほとんどが税金とはいえ、キューバ政府もやってくれるもんだ。

街を歩いていると、「シガー」と声を掛けられる。葉巻の違法の売り込みだ。あまりにその数が多いので嫌気が差すのだが、ようやくその訳がわかった気がする。きっと凄く儲かるんだ。

しかし、キューバ人はいつまで経っても自国の高級品を吸えないってのはどんな気持ちなんだろう。

床屋へ行こう

髪を切り、ひげを剃る。世界中どこでも同じようなもんだ。ただし値段が違う。キューバでは1

ドルだった。地元の人が行く所だから本来はペソ払いなのだが、今日はペソを持っていなかった。実際はもっと安いだろう。

海外で髪を切るのは結構好きだ。世間話ができるし、そして安いから。さすがにこのキューバでは地元の床屋では英語が通じないが、安さだけは、これまでの最安値、ベトナムの2ドルを抜いてキューバが一番となった。まあインド辺りではもっと安そうだが。

かみそりの刃を交換したかどうか気になったが、そう言えば、ここキューバはエイズに対する厳しい対策が取られていて、世界的にもエイズが少ないらしい(0.03%という数字がある。日本は0.02%)。1983年という発見初期の段階で輸入血液と血液製剤を破棄したというのは凄い事だ。



椅子は壊れていて、タオルは雑巾みたいだったけど、腕はなかなかた。

スーパーへ行こう

買い物に行く。

通りで黒人が、チーノかハポネスかを聞いてくる。

興味を持った、聞きたい、ってことがあれば話しかける国民性かもしれない。そこには何のためらいもない。彼らにとってはごく自然なのだろう。

キューバの治安はアメリカ南北大陸を通して最も安全なので、声くらい掛けられても応じてあげるくらい何でもないので、いつもの癖で、こちらは警戒してしまう。何だかんだと金をせびるか、ものを売りつけると思ってしまう。

まあ、中には実際にそんなやからもいるだろうが、大部分の人は興味本位と親切さからみたいだ。そう言えば、キューバでは東洋人を見るとチーノと馬鹿にする人も中にはいるが、割と親しみを込めて呼び掛けているように感じる事もある。

さらに、チーノじゃなくてハポネスだよ、と言うと、親しみを込めて握手を求められる事もあるのだった。

行ったスーパーは2階建て。一階には肉が売っていた。でも色合いが全く良くない。

ソーセージなんて凄くまずそうだ。野菜と魚はない模様。

瓶ビールが中心のキューバだが、ここには缶ビールが売っている。キューバのメジャービールは2種類あって、CristalとBucaneroである。Cristalはすごく軽くてやがて飲み飽きるが、Bucaneroはコクがあって、私はこちらの方が好きだ。



お店にはガードマンがいる事が多い。そしてこれぞ社会主義。棚にはたくさん並んでいるが、同じ商品が多いのだった。

ここで【マルタ】と呼ばれる飲み物を見つける。ビールの横にあったので買ってみた。ノンアルコールである。黒糖のジュースみたいな感じ。ラムに入れて飲んでみたがとても甘すぎてやっぱり駄目だ。キューバの女性は結構この飲み物が好きらしいのだが。

デパートへ行こう

デパートにも行ってみる。

恐らくハバナで一番大きなデパートではなかろうが、4階建てで、平日というのにずいぶんと混んでいる。

一店舗から伸びる長蛇の列がある。どうやら、1ドル均一ショップらしい。入場制限しているほどの人気だった。

同じように並んでいる店がある。こちらは3ドル均一ショップだ。

さらに進むと、10ドル均一ショップがあった。

こちらの方の込み具合はまあまあ。

何でもキューバの平均所得は10ドルという話だ。

これはドルにアクセスできない層の話だと思うのだが、事実だとすれば、1ドルショップにさえ来るのはたいへんな事に違いない。



平日なのに無茶苦茶混んでいた。目当ては1ドルショップみたいだ。撮影禁止みたいで、これを撮った後、警備員に怒られた。

チェ・ゲバラという男

一応キューバも社会主義国なので象徴的な広場がある。キューバでは革命広場と呼ぶようだ。そこへ行ってみた。何の事はない広い敷地、高い塔、そしてビルの壁に飾られたある男の肖像。名前をチェ・ゲバラという。

実は私はキューバに来るまで、恥ずかしながらこのチェ・ゲバラという人を知らなかった。

自分が知らなかったので言うのも何だが、日本人でも知っている人って多くないんじゃないかなあ。

伝説の革命家だそうだ。カストロよりも2歳若く、カストロと共に革命を成功させた人物である。キューバでは、この肖像に現れるようにヒーローになっている。紙幣の絵にもなっているし、街には彼を描いたTシャツ、カップ、絵葉書などたくさんお目にかかる。カストロよりもよほど目につく存在なのだった。



チェゲバラがある内務省のビル。夜はチェゲバラが浮かび上がるらしい。

これほどまでに一国のヒーローを知らないってのは問題だなあと思い調べてみると、何と以外に

も彼はアルゼンチン人なのであった。南米各地を放浪していて、カストロと出遭ったらしい。さらに驚いたのは、彼は「キューバの経済使節団長」として日本にも来ているそうだ。彼は後年キューバを離れ、ボリビアで革命運動をしている時に政府軍に捕らえられ処刑されたという。一生涯革命家ということか。

いずれカストロが死に、国の体制が変わるとき、今の様にこのチェ・ゲバラが英雄のままなのかどうか興味のあるところである。

この広場では、毎年 1 月 1 日と、メーデーの 5 月 1 日には、カストロが演説するらしい。数十万人もの人が広場を埋めるという噂だが、そんなに広いだろうか、ちょっと疑問だ。その 5 月 1 日に向けて旗作りが進んでいると、キューバのテレビで放映していた。過去の映像も流れて、確かにたくさんの人が旗を振っていた。野球が見れないなら、せめてカストロの姿を見たかったところだ。

支倉常長の像

海岸沿を歩いていると、刀を差している侍の様な像が現れた。間違いなく日本の侍だ。「何でこんなところに」と思う。

彼の名は、支倉常長という。

先日、NHKの「その時歴史が動いた」だったかで、伊達政宗がローマに送った慶長遣欧使節団の話をやっていた。彼らは当時、相当期待されてヨーロッパまで行ったものの、帰って来てみたらキリシタン禁制の世の中になっていて、失意の内に行方不明になったと聞いていたが、こんなところにいたのか！



当時は太平洋を渡ってから大西洋を渡りヨーロッパまで行っていたんだと初めて知った。彼の扇子はローマを指しているみたい。

日本語の解説をみると、仙台育英学園の寄贈らしい。何でも支倉常長は仙台の英雄だそうだ。日本人で最初にキューバを訪れたという事でこの地に寄贈されたという。さらに当時、ヨーロッパに行くのに、太平洋と大西洋を渡って行ったと書いてある。しかし 400 年も前に日本人がこの地に立っていたというのは驚きだ。

コロンブスがキューバに来たのは 1492 年だから、そのわずか約 100 年後という事になる

乗り物について

キューバには客を乗せて道路を乗り物がたくさんある。

乗り合い馬車

首都ハバナでは明らかに観光用だが、地方に行くとそれなりに活躍していると聞いた。高そう

なので結局乗らず。子供連れの観光客がよく利用していた。

普通のタクシー

大体はボロの車である。ロシア製の RADA という車が多い。ただ、ヨーロッパの新しい車なども走っている。日本車はあまり見かけない。

料金は、初乗りで 0.5 ドルの場合もあれば、1 ドルの場合もある。料金の上がり方も、車によって違うみたいだ。

さらにメーターのない場合もあって、その場合には交渉。メーターがあっても交渉する事があるが。

私が乗ったタクシーの中で一番気に入ったのは、昔の車のレプリカと思われるオープンカー。快晴の空の下、ぶっ飛ばすと気持ちがいい。



運転手の女性(美人)は、1929 年の型と言っていた。ハンドルにはフォルクスワーゲンの V と W の文字が。

乗合タクシー

使われるのはアメ車である。1950 年ころの大型の乗用車が街を走っている。ビューイックかポンティアックか知らないが、とにかくアメリカの昔の映画、例えばバックトゥーザフューチャーでピフが乗り回している様なやつが、今だにキューバでは我が物顔で走っている。もちろん廃棄ガスを大量に出しながら。こんな国がまだあったのかつてな感じになる。

この手の車は、決まったルートを流しているようだ。100 ペソ(0.38 ドル)で乗れるという噂なのだが、いつも満席で一度も乗れなかった。

ココタクシー

原付のエンジンと思われるバイクを改造して搭載している三輪車型の観光タクシー。ココナッツをイメージしているのだそうだ。だからココタクシー。

外国人の人気が高いが、値段もそれなりに高い(1 キロ 0.5 ドル)。



客は二人まで。スピードは遅いが情緒がある。こんなのが日本にあったら良いのに、と思う。沖縄とか似合いそうだ。

自転車タクシー

原始的なのは自転車タクシー。一般の市民も利用しているようだが、観光客は外人料金を取られる様だ。で、結果としてタクシーと比較してあまり安くない。遅いし、坂があると断られたりもするらしい。

普通のバス

大小のバスが、黒煙を出しながら走っている。何故かいつも満車状態。通りに人があふれていると思ったら、そこがバス停というケースが多い。ラッシュアワーの時間帯があるのだろうかというほど、いつも人を満載して走っているのが不思議だ。

カメージョ(ラクダ)

大型のトレーラーが、列車の2車両を引っ張るようなバス。連結部分が一段下がっている。

ラクダの様な形をしているからカメージョと呼ばれるらしい。200~250人くらいを乗せるらしい。平地では力強いのだが、坂を登る時はものすごい大変そう。

その姿は結構かわいい。

ボディには、MetroBus と格好良く書かれているが、そうは呼ばない様だ。



必然的に大通りだけ走っているせいか、いつもむちゃくちゃ混んでいて、一度も乗るチャンスが無かった。残念。

しかし、道路を走っている車を日本の車検にかけたら、恐らく5%くらいしか通らないような気がする。

それだけボロいし、排気ガスも相当なもんだ。

ホテルの部屋で寝ていたら何だか排気ガス臭い。最初は気のせいかと思っていたらそうではなかった。そしてエアコンの排気の問題かと思ったがそうでもない。

仕方なく、窓を開けると外はもっと臭かった。その夜はまったく風がなく、悪い空気が街に滞留してしまったのだろう。

しかし、部屋を閉め切っているのに臭いを感じるというのは凄い事だ。

キューバはそれなりに楽しかったが、目的の野球にほとんど出あえずに今一つ消化不良だった。ただ、キューバの夜は楽しいらしい。

カクテルを飲みながら、キャバレーにサルサにジャズにディスコ。

音楽と踊りが好きな人には、とても楽しい国だそうだ。

次の国へつづく